

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501155		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム ハートハウスもいわしたⅡ番館		
所在地	札幌市南区南32条西8丁目1-15		
自己評価作成日	平成26年11月6日	評価結果市町村受理日	平成27年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月に開設した2ユニットのグループホームです。藻岩下という自然と人の触れ合いを大切に作る町で、地域の方々のご協力を頂きながら安心して生活しています。法人では、最新式の設備を整えた重度化しても安心して住んで頂けるグループホームです。看護師が常勤し、浴室はリフト浴、普通浴室があり入浴をゆったりと楽しむ事が出来ます。トイレも最新式の工夫がされており、ゆっくりと使用できます。エレベーターも設置しており、ユニット間の行き来が気軽にできます。2階には広いテラスがあり、天気の良い日には食事をしたり、ティータイムを過ごしていただいています。多目的室があり、2ユニットの合同行事やご家族を交えての交流会や、地域の方々にも使って頂いています。8月には、札幌市と協賛で「オレンジカフェ(認知症カフェ)」を開きました。12月より毎月行っていきます。地域に根ざしたグループホームを目指すと共に入居者様には安心して自分らしい生活を送って頂くことをモットーに職員は日々自己研鑽に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っています。管理者と職員は、その理念を共有し、日々意識してケアにあたっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域の行事(夏祭り、学童保育のイベント、文化展、七夕等)に参加しています。又、多目的室を地域の子供会に使っていただきました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	9月12日、第1回目認知症カフェ(オレンジカフェ)を行いました。12月からは毎月1回行う予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故、苦情、日常の様子等の報告を行い、ご家族、地域の方からもご意見や要望を伺い、ケアにつなげています。(駐車場の要望、ケアカンファレンス参加の希望、日常生活で体を動かすことを増やしてほしい…等)又、外部評価への取り組みの説明を行いました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、行事報告、事故報告、苦情報告等を行い、協力関係を築いています。又、市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束におけるマニュアルを作っています。法人内年間研修計画の中には身体拘束研修を必ず設定し、積極的に参加し、職員が意識を持ってケアにあたっています。又、外部研修にも参加し、職員に周知しています。玄関は防犯目的で施錠しているが、イベント時は解放し、普段は気軽に出入りできる環境にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、法人内で高齢者虐待防止法に関する研修会を開き(不適切ケアも含む)、理解、浸透に努めています。法令遵守に関する研修も行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加しています。現在、必要のある入居者様はならず、その都度検討していけるような体制にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時は、口頭で丁寧な説明し、納得していただいたうえ、同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で管理者や、職員に気軽に話せる環境を整えています。半年が経ち、ご家族、入居者様とも、コミュニケーションがとれ気軽に話せる環境ができてきています。又、運営推進会議でも、ご家族様、地域の皆様の意見を頂き、ケアに反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所合同の業務カンファレンス、ユニットカンファレンス、ケアカンファレンスを開き、意見や提案を聞く機会を作っています。又、業務中においても、気軽に意見等を話せる環境を整えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価をして頂き、個々の努力や実績を把握し、やりがいや向上心につなげています。休み希望等も可能な限り、とって頂き働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修の年間計画(新人、中堅、管理者)を立て参加しています。新人職員は、新人研修マニュアルに沿って指導をしています。法人外でも、職員一人ひとりの力量に合わせ、実践者研修、管理者研修、身体拘束防止研修、コンプライアンス研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市や南区の研修に参加し、交流する機会を作っています。職員は、法人内の研修に参加し、他グループホーム、老健、特養、病院の職員と交流を持ちケアの質の向上に努めています。又、法人内では年に1回、学術研究発表会を行っており、他施設の研究の成果を学ぶことが出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が事前訪問をし、ご本人、ご家族と面談をして生活状況を把握し不安なこと要望等をお聞きし安心して頂けるように努めています。また、見学に見えたときは、お茶を飲んで頂いたりして雰囲気を感じてもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、ご本人にどのような生活を送ってほしいかなど、要望等を聞き、信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人、ご家族の思いや、必要としている支援を見極め、たのサービス利用も含め、ケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩である事を踏まえ、共に支え合う関係を作っています。ゆっくりと関わること、隣で寄り添うことを心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共にご本人を支えていく関係づくりに努めています。ご家族と同じ思いでケアを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来訪時には、居室でゆっくりお話をし、居る環境づくりをしています。なじみの場所にドライブに行ったりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や趣味などを職員が理解し、入居者様同士のコミュニケーションづくりに努めています。食事の席など、楽しんで食べて頂けるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人、ご家族のお話を聞き、フォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中での言動により、何を望まれているかを感じ、訴えが少ない方でも行動や表情から考えられる思いをくみ取り把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターシートを用いて、ご家族様に生活歴等をお聞きし、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、一人ひとりの生活のリズム、できる事等を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師等の意見、アイデアを反映させたプランを作っています。また、必要に応じ、随時カンファレンスを開きモニタリングを行い現状に合ったプランにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアプランの実践結果、気づきを介護記録に記入しています。それをカンファレンスで職員全員が共有し、ケアプラン作りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等を柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の夏祭りに参加し楽しんで頂きました。秋の文化展に趣味活動の作品を出展し、見学に行き、参加した喜びを感じていただけました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関で受診して頂いています。かかりつけ医には、必要に応じてご本人の体調や様子を報告し関係を築きながら適切な医療が受けられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理相談での看護師のアドバイスを合わせ、看護師1名が常駐しており、迅速なアドバイスを受けることができ、適切な受診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療が出来るようにご本人の情報を提供しています。早期に退院できるように、ご家族、医療連携室の方と、情報の交換に努めています。また、職員がお見舞いに行き、安心して頂けるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る方針」として説明を行い理解して頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応のマニュアルを作成しており、実践につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災のマニュアルを作成しており、防火訓練は年2回(4月、11月)職員全員参加し行っています。開設半年なので、地域との信頼関係を構築しているところです。次年度には、協力体制を築いていく予定です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての「接遇」研修を受け、常に入居者さま本位のケアを心がけています。また、ご本人の気持ちを大切に考えた言葉かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、洋服を選んで頂いたり、飲み物のご希望をお聞きしたり、入居者様に合わせて声かけをしご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの気分や気持ち、体調に配慮しながら、ご本人のペースを大切にしながらご希望にそって過ごして頂けるように努めています。(食事、就寝起床時間、入浴、買い物、テレビ番組の選択等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、お一人おひとりに合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう声かけをしています。出来ない方にはお手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや、病状に配慮した食事をして頂いています。また、食事の準備や後片付けを職員と一緒にすることでコミュニケーションがとれ、食事に対する楽しみにつながっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を食べて頂いています。その他、糖尿病の方など、ご本人の状態に合わせ医師と相談しながら食事量を決めています。水分量は、記録表に記入しながら摂取量を確認しています。また、食事やティータイムのほかにもご本人の習慣に応じてお好みのものを摂って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いています。お一人おひとりの力に応じて、声かけや、見守り、お手伝いをして口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを考え、職員が、声かけお誘いして気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援しています。また、尿意の表現ができない方には、表情や行動から、さりげなくお誘いしています。リハビリパンツから布パンツへ段階を経て無理なく自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排便のリズムを理解したうえで、飲み物の工夫(野菜ジュース、牛乳、ヨーグルト、センナ茶、冷たいお水、ヤクルト、オリゴ糖)や食べ物の工夫(繊維の多い野菜)、運動をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望を聞き入浴して頂いています。入浴剤を選んで頂き、香りや色でリラックスして頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	たご本人の生活のペースで休息、就寝して頂いています。また、安心して眠れるような声かけや、眠りやすい環境(居室の灯り、温度、湿度、音)を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬について、処方情報などより職員は理解をしています。服薬マニュアルに沿って服薬して頂き、症状に変化が無い確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが好きなことや得意なことが活かせるように声かけし行って頂いています。また、気分転換にもつながっています。(体操、ことわざ、布巾縫い、刺し子、調理、等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのその日の希望に沿って買い物に行ったり、いつでも出かけられるようにしています。ご家族と一緒に他施設に入居されているご主人に会いに行ったり、自宅に帰ったりしています。また、地域の方々の協力で町内のお祭りに参加したり、文化展に出品したりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している方がほとんどですが、ご自分でお財布を持っている方もいます。職員と一緒に買い物に行ったときは支払いをお願いすることもあり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今の所、ご希望される方はいませんが、いつでも出来るようにしています。かかってきた電話は子機を使用し居室等でゆっくりと話して頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持を心がけ、リビングには花を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしています。職員が業務で発する音、会話等、入居者様に不快感をあたえてしまう音が無いよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他に、ソファを配置し、他入居者様と話したり、ゆっくりとテレビが見れるようにしています。また、離れたところに椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所も作り利用して頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら家具やベッドなど使い慣れたものや好みのもの、使い心地の良いものを持ってきて頂いています。写真や趣味のものを飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりのわかる力を見極め、字の大きな日めくりカレンダーを掛けたり、必要に応じて居室に名前を付け工夫をし、環境整備をして安全に生活できるようにしています。		